

# 第2回 革新的創薬のための官民対話 欧州製薬団体連合会の意見

2008年8月26日

欧州製薬団体連合会 (EFPIA Japan)

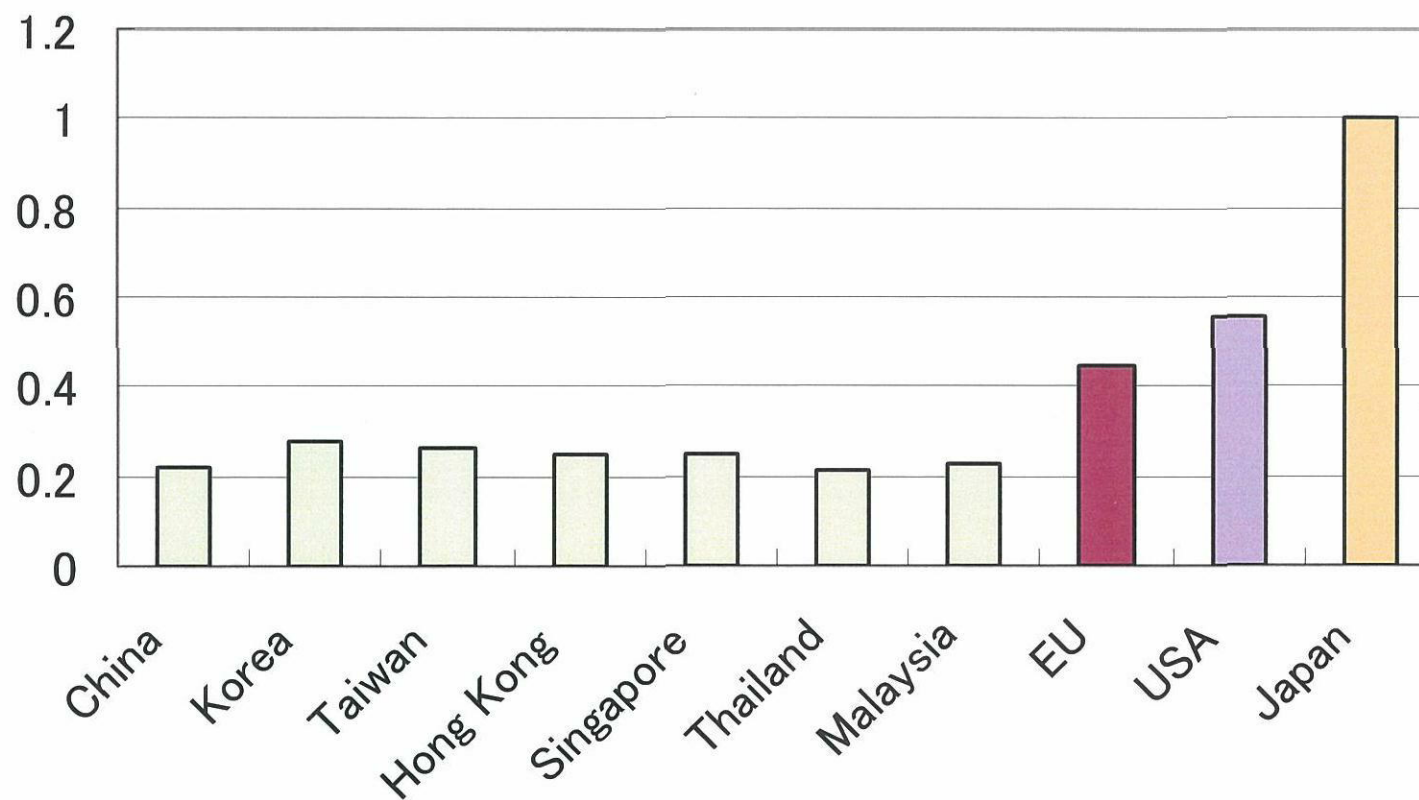
副会長 加藤益弘

- 国際的に通用する基盤技術の創出
- 治験環境の整備：コスト高の適正化が急務

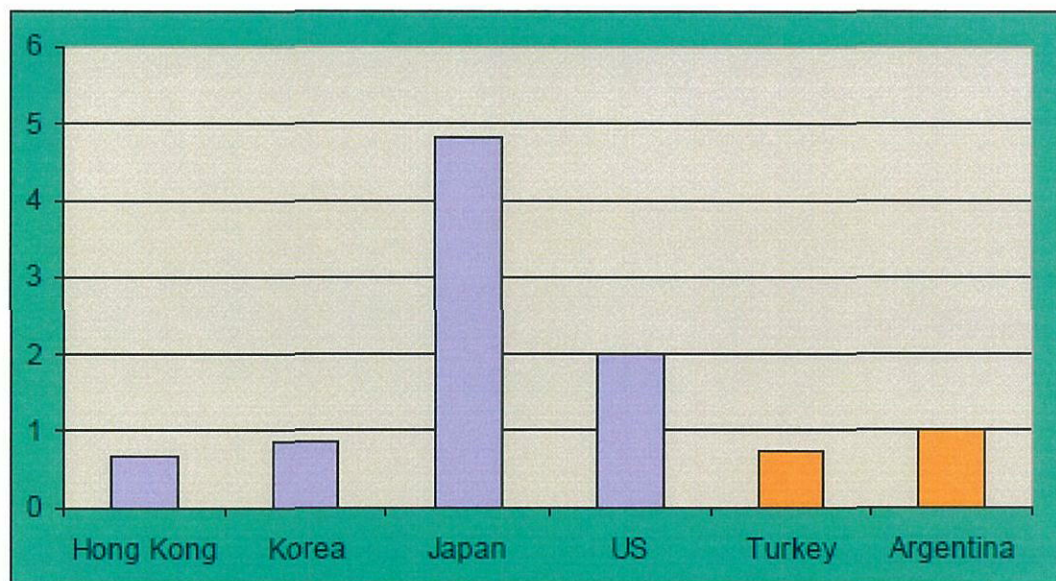
- 国際的に通用する基盤技術の創出
  - 創薬基盤研究等の成果を海外へ
  - 日本発新薬の海外への展開、海外の新薬の導入の促進
  - 規制の相互認証など環境の改善
- 治験環境の整備：コスト高の適正化が急務
  - 質・時間・コストのうち本邦での質・時間は大幅改善
  - 日本のコストは世界の中で突出して高い(次ページ)
  - アジアを含む海外への治験の流出(空洞化)の一因であり、ドラッグラグの要因になっている



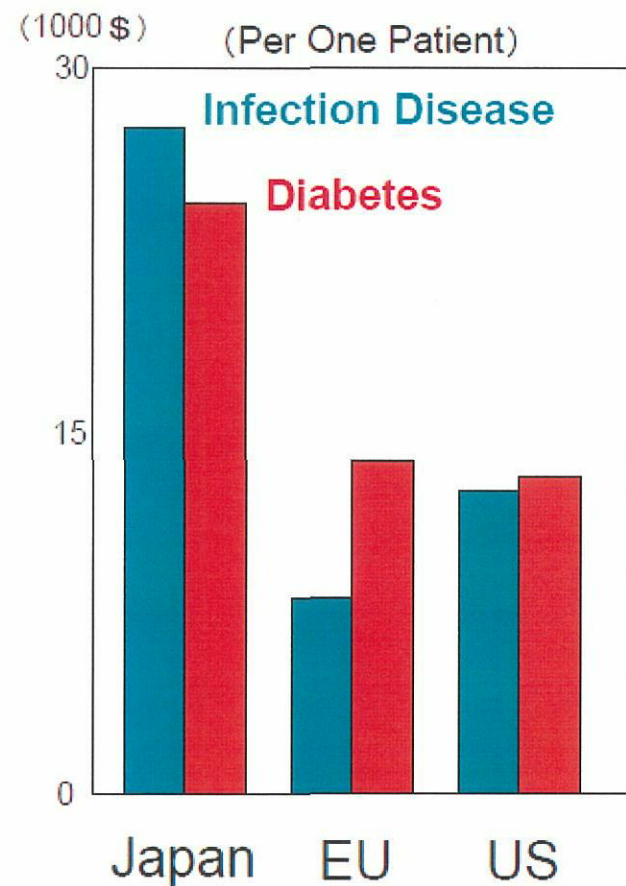
Relative Cost



Source: 2002 Clinical Trial Globalization Symposium  
 (Cited from the 2nd "Clinical Trial Issue Committee" Material)



Presentation by Dr. Uden at 3<sup>rd</sup> Kitasato-Harvard Symposium, 2002



(from JPMA and OPIR report)